

第8学年 道徳科 指導案

- 1 主題名 『個性を尊重する社会』 【内容項目：C－(11)】
2 教材名 「リスペクト アザース」 (著者：坪井洸・出版社：日本文教出版社)

3 ねらいとする道徳価値について

現実の社会がもつ矛盾や課題に気づき、理想を求める気持ちや正義感も強くなる。反面、周囲の目を意識し、ほかの意見や考えに左右されやすくなり、不正な行動やいじめなどの差別的言動が目の前で起こった場合、内心いけないとわかっていても勇気を出して止めるなどの正義の実現に努めることに消極的になってしまうことが多い。正義と公平さを重んじることは、正しいと信じることを積極的に実現できるよう努めることである。差別や偏見のない社会の実現のために、誰に対しても公平に接することができる態度を育てることが重要である。

4 ねらい

正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努める心情を育む。

5 本時の流れ

* 以下は、おおまかな流れを示したものである。第8学年では、毎時間の授業で、この流れを参考にしつつ、各担任が学級の実態に応じて、発問の仕方や数を工夫したり、グループ活動を取り入れたりしながら、授業を展開している。

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	○「文化の違い」について考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">発問「食のタブー（牛）（豚）」について知っているか。</div> <ul style="list-style-type: none">・牛：ヒンドゥー教・豚：イスラム教	●わかる生徒がいない場合、深入りをせず、多様なものの考え方があることを知り、価値への方向づけとする。

展 開	<p>○教材「リスペクト ア ザース」を読み、考える。</p>	<p>発問①人間関係のトラブルが起こった際、行動への注意ではなく「他の人のことを尊重しなさい」と言われたとき、「僕」はどんなことを考えただろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育った環境で考え方が違うため、話がまとまらない。 ・相手の立場で考えると冷静になれる。 <p>発問②日本に来て、これまでのサンディエゴでの常識が通用しなかったとき、「僕」はどう考えたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんで自分が頑張ったことを主張したらだめなの？ ・どうしてみんなは、周りに合わせようとするの？ ・ひどいことを言って「冗談」で済ませられるかよ。 ・日本って、なんか変だよ。 <p>発問③「人権尊重の社会を作っていくのは、僕たちひとりひとりの考え方による」と言った「僕」の思いとは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のよさも、自分のよさも大事にしたい。 ・よりよい人間関係を築いていきたい。 ・お互いを理解し、尊重しあっていく社会になってほしいという期待を込めた思い。 <p>発問④差別や偏見を生む原因はどこにあるだろう。いろいろな角度から考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場を考えなかったり、決めつけたりとするところ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「いじめはだめ」ではなく、根本的なことを考えるようにしたアメリカの風土を考えさせる。 ●多民族国家であるアメリカは、ものの考え方もさまざまであり、違いを認め合うことと相手を尊重する気持ちがないと社会が成立しがたいことを押さえる。 ●協調性を大事にする日本人の国民性と、多民族国家のアメリカ人の違いを考えるとともに、個性の伸長と自己主義の違いについても考えさせる。 ●人権差別や白人至上主義など、人権への意識の高いアメリカ人と比較的相手の立場をあまり考えない日本人から、国際人として人権感覚を高めることの必要性を考えさせる。 ●書く活動を用い、深く考えられるようにする。 ●相手のことを考えていない言動により、人を傷つけていないか、自分自身のことを深く振り返らせる。
ま と め	<p>○教師の説話を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●これまでの苦い経験、失敗談などを話す。

6 評価

「他の人のことを尊重する」という考え方をとおして、歴史的な背景、風土などを踏まえてアメリカと日本の考え方を比べ、公平・公正な社会をめざし、よりよい生き方や考え方を模索するような発言や記述が見られたか。